

こころネット通信

第2号

発行者: NPO法人こころネットワーク県南 〒963-6131 福島県東白川郡棚倉町字北町102 :090-6253-5190



謹 賀 新 年

昨年はいろいろとご心配をおかけしました。

今年はいよいよ支援センターが始まります。

今年もよろしくお祈いします。

支援センターオープンに向けて

5月17日:こころネットワーク県南の総会も終わり、10月オープンに向けてさあ始まるぞ、と思
ったとたん支援センターの建設のための補助金が不採択、という驚愕のニュースが飛び込んで
きたのが6月9日のことでした。(実際は5月の末だったのですが)全国で161件の申請が出され
たうち、わずか約20%しか認められず、126の新規事業が宙に浮いてしまいました。8月には追
加内示がありましたがそれでも50%がダメでした。私たちの支援センターもそのダメの仲間に入
ってしまい、思いもよらない事態に大変困難な状況に陥ってしまいました。

あれから半年、みなさまには大変ご心配をおかけしましたが、ようやく県と市町村の予算をつけ
ていただき、今年度中に支援センターができることになりました。オープンは3月の予定です。

本来、国の予算が付かなければ県の予算も執行できません。しかし今回は福島県の2つの団
体がこのような異例の方式で支援センターができることになり、前述の20%の補助金を受けた
団体分も含め、合計3つ支援センターが福島県内にできることになりました。

今回のことではたくさんの方からの応援とご支援を頂き、また、各関係機関のご配慮に深く感
謝申し上げます。

支援センターの建物の建設は10月26日に着工式を行い、3月のオープンにむけて、急ピッ
チで、工事が進められております。また支援センターや精神障がいを理解してもらうため、勉強
会を重ねたり、講演会の計画や名前の募集をしています。

事務局 熊田

生活支援センター設立のためご寄附を頂いた方(敬称省略)

(平成14年度)

落合真理子 橋本家康 大越文恵 齋藤博司 川村里子 高橋緑 石下恭子 菊田宗平 芳賀幸子 相田秀子 戸口慶三郎 岡部勝孝 加藤セツ子 熊田芳江 下重スエ子 前田穰 大高貞男 藤井克徳 岡野健 中川裕江 藤田礪業(株) 橋本家康 (株)W・F・N 関根喜美子 岡部勝孝

(平成15年4月～7月)

増子直子 匿名様 白河中央公民館霞白梅清吟会 戸口慶三郎 近藤ツネ子 真船義行 山口芙美子 長田武夫 本田登起子 鈴木喜四郎 下重スエ子 増子直子 中上一商店 山田新市 朝生裕之 菅原敏子 関元行 片岡武子 片岡正勝 片岡義和 澤美枝子 二宮光子 鈴木善四郎 熊田芳江 石下恭子 齋藤雄一 田代洋子 薄井英二

会員(平成14年10月～15年12月まで入会の方)

正会員

齋藤博司 石下恭子 戸口慶三郎 高橋充 村山通子 蛭田みゆき 鈴木芳子 齋藤雄一 清水国明 佐藤弘子 金子公子 金澤幸子 橋本トシ子 金澤正子 藤田真澄 菊地亮江 落合真理子 熊田芳江 田代洋子 川又セツ子 菊田鈴子 鈴木寛 福田容子 和田衣代 加藤典子 栗原憲 古市富士子 石井祐子 坂井周平 有賀次子 浅川なおみ 金子靖都子 小林紀子 吉田静 高崎芳雄 鈴木正彦 佐藤美津子 保阪昭憲 遠藤和憲 本田幸一 後藤規子 加藤セツ子 近藤禎幸 中村勝男 鈴木喜四郎 吉田京子 鈴木綾 小堀新一郎 二方秀夫 寺島直美 木村活昭 深沢千賀子 藤田隆千代 鈴木良一 植村寿美子 伊藤ロク 渡辺源吾 大沼哲夫 小比田洋希 田子靖子 松崎ミサオ 石川栄 安達はつ子 中目満子 宮尾桁子 角田智恵子 森山ヒロ子 辺見敏夫 永野茂 榊田玲子 峰村多恵子 清水則子 岡野健 鈴木幸子 加藤朝子 前田広子 井上みち子 芳賀幸子 徳田芳江 森谷信次 馬場博美 山崎智子 角田愛子 川口恵子 子仙浪和子 郡司省平 吉田香苗 固山礼子 寺山由美子 渡辺礼子 藤田由里子 薄井英二 小河ケイ子 関元行 松田タイ子 増子一 高橋信子 棚瀬敏夫 菊田善四郎 梅原正子 深谷美智子 下重スエ子 大高貞男 千崎京子 相楽和子 上田留子 佐藤サダ子 中村勝男 櫻田香乃子 武部忠子 田崎礼子 白石光子 白石正雄 片岡義和 藤田由里子 渡辺礼子 寺山由美子 固山礼子 細谷寿江 郡司省平 川口恵子 仙浪和子 角田愛子 山崎智子 鈴木善四郎 堀越美知子 近藤悦子 高久栄子 桐野なを 澤美枝子

賛助会員

穂積彰一 仲川裕江 松本カツ子 尾形幸子 三森繁 森山千代 鈴木信代 小林日出夫 藤田幸二 上村博 藤田幸治 中村文夫 吉田京子 吉田香苗 安藤紀彦(富や蔵)

団体会員

藤田礪業 東白川地区精神障害者家族会 田代行孝税理士事務所 岩城屋 (株)ダブリエ・エフ・エヌ 白井酒店 ワイズコレクション 白河社交ダンス愛好会 銀河の会

活 動 報 告

平成15年
5月17日 通常総会
6月9日 国庫補助金不採択通知
7月7～8日 あみ全国大会(横須賀)
7月22日 補助金問題全国集会
9月21日 活動紹介(しらかわ支援センター)
10月10日 福島県補助金交付決定
10月19日 うつくしま基金プレゼン(決定)
10月26日 地鎮祭(着工)
10月27日 県南保健福祉担当者会議
11月17～26日(5日間)
障害者ケアマネジメント従事者養成研修
11月21日 障害のある人のための地域生活支援のための国際フォーラム参加
*その他:月例勉強会(第4土曜日)

今後の予定

1月24日 講演会
有賀清(有賀クリニック院長)
たくさんの方のご参加をお待ちしております。
2月 5日 施設見学
(生活支援センター佐野)
2月20日 建物引渡
2月23日 建築確認審査
2月28日 月例勉強会
(ご自由にご参加下さい)
3月 1日 支援センターオープン
*** その他 ・支援センター名前の募集
・支援センター開所式(3月)**

編集後記

6/9の補助金問題以来
予期しない出来事に追われ、しばらく身動きできない状態になってしまいました。
広報の発行も大変遅れてしまいました
10月で仕事を辞めて以来、いろんな作業所や施設を訪問しています。
それぞれ良いところ、困っているところいろいろですが、もっと横のつながりが必要だと思います。

k u m a

精神保健福祉の改革に向けた今後の方向

厚生労働省は、平成14年12月、精神保健福祉対策本部を設置し今後の取り組むべき施策と方向について、勉強会を重ね、15年5月、次のように中間報告をとりまとめました。

これは今後の精神保健福祉の方向を示す者であり、当会が目指している精神障害者生活支援センターも、この方向性に添った事業を展開していくものです。

基本的方向と重点施策

「精神疾患は、誰でも罹る可能性のある疾患であると同時に、適切な治療の継続により、その症状を相当程度安定させ、寛解又は治癒する事も可能な疾患である。

精神病床においては症状に応じた適切な治療により早期に退院を可能とするよう、たとえば急性期集中治療、リハビリテーション、専門治療等の機能分化をはかる必要がある。

一方、当事者が地域において安心でき、かつ、安定した社会生活を送るためには、地域ケア体制の整備と共に、住居を確保し、働く場を提供し、地域生活を支援する体制を整えることが不可欠である。

「入院生活中心から地域生活中心へ」という方向を押し進めるため、精神障害者が可能な限り地域において生活することができるよう、必要な保健医療福祉サービスの資源を確保し、適切に配分していく必要がある。そのための重点施策として、以下のことについて優先的に取り組むこととする。」

1, 普及啓発

一般に精神障害に対する認識が十分とは言えず、精神障害者と言うことを理由に偏見を持たれ、そのために社会的な差別を持たれることが少なくない。

精神障害者に対する無理解、誤った認識を改めるべく積極的な普及啓発活動を行うため、あらゆる機会を通じて理解の促進を図るとともに、当事者活動の機会を増やす。

2, 精神医療の改革

ア、精神病床の機能分化を図り、入院医療の質を向上させる。

イ、精神科救急体制を含めた地域ケアの充実

ウ、精神病床の機能強化を推進し、よりよい精神医療の確保のため、人員配置の見直しを含めて病床数の減少を促す。

3, 地域生活の支援

ア、地域における住居先の確保を支援する。

イ、精神障害者の雇用支援を進めるとともに、雇用の機会を増やしていく。

ウ、気軽な相談機関や仲間・生き甲斐づくりについて

地域の相談支援機関の充実、及び当事者同士の相談活動を通じた支え合いの場を設ける。

地域生活支援センターにおいて、個々の精神障害者のための各種地域支援サービスプログラムの提供等の機能充実を検討

ピアサポート(当事者自身による相談活動)、クラブハウス等の当事者活動や作業活動等の支援

4, 受け入れ条件が整えば退院可能な7万2千人の対策

1～3の各施策の推進と併せ、7万2千人の早期退院、社会復帰の実現を図る。

5, 具体的検討の進め方について

平成15年度より以下のような検討を開催しそれぞれの課題に対応する。

・普及啓発検討会 ・精神医療の病床数の見直し検討会 ・在宅福祉、地域ケア検討会

早く支援センターを

当事者の立場に立ったサービスを期待

今回、泉崎村にできるはずだった、こころネットワーク県南が予定していた「精神障害者地域生活支援センター」が先送りされた件は、私たち当事者にとって、「なぜ？」とただ一言で終わってしまった。

関係者のさらなる努力を私たちは待っている。

ところで、昨今から、病院デイケアや保健所の主催するデイケア、地域の作業所など、それぞれにあるべき姿があるのだろうが、障害者の社会復帰のステップアップを考えた時、そのマンネリ化や継続的サポートの断絶化など、個人へのサポートシステムの構築こそ、本来の医療や福祉の求められる姿のような気がする。病院に入院している仲間の中にも社会復帰施設が整備され、その受け皿さえ整っているのなら退院できる人が大勢いることはすでに知られているはず。

また地域で生活している障害者もデイケアや作業所が、その活動時間が終わってしまえば家へ帰るしかなくその相互支援や、居場所的なものまた就労(職親等による就労)への道、いつでも利用できる相談者など考えなければならない問題は山積みのはず…

白河市 H・K

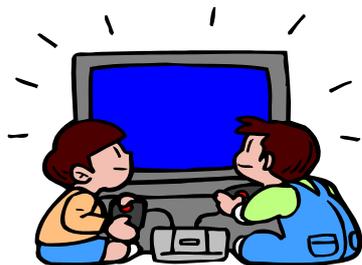
石下恭子先生

平成15年度お年玉付年賀はがき

一等賞

液晶テレビを寄附

今年度から理事になられた石下恭子氏(福島市)は、お年玉付年賀はがきで1等賞を獲得、その商品の中から液晶テレビを、支援センターの備品としてご寄附頂きました。



うつくしま基金より助成

こころネットワーク県南では、平成15年度公益信託うつくしま基金、100万円の助成が決定しました。

活動テーマ: 精神障害者の地域デビューを支える / 精神障害者地域生活支援事

関先生、個展の売上金を寄附

白河市の内科医、関元行氏(白河市)は15年6月、白河市の画廊で野草や昆虫の水彩画の展覧会を催し、130点を完売、その売上げ金50万円をご寄付頂きました。

